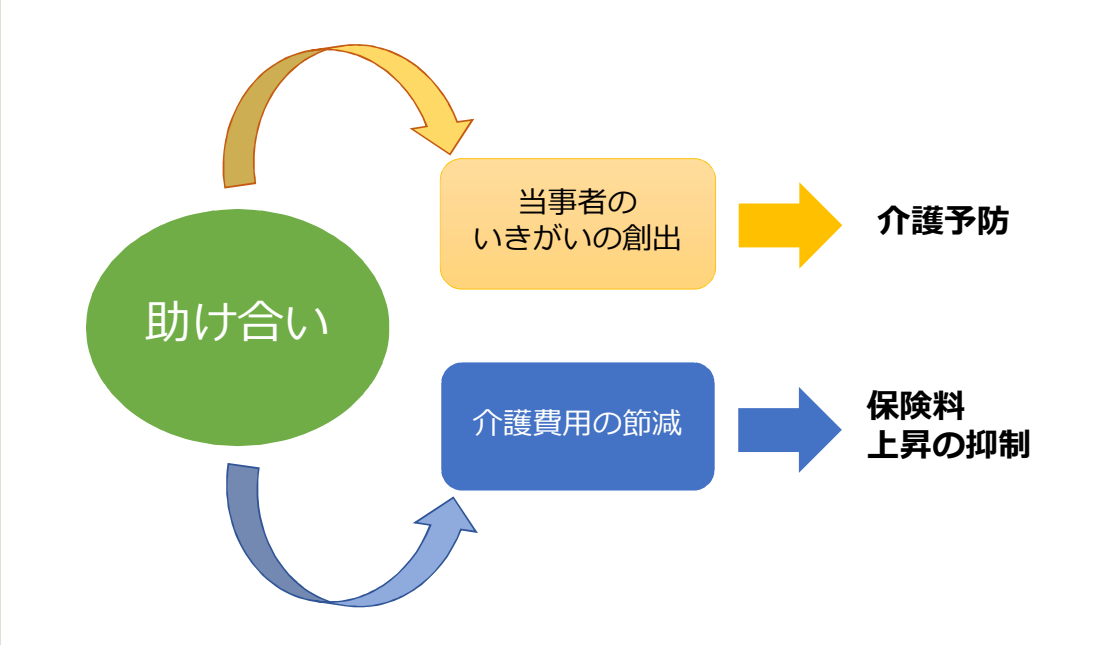
資料２

助け合いの地域づくりに向けて

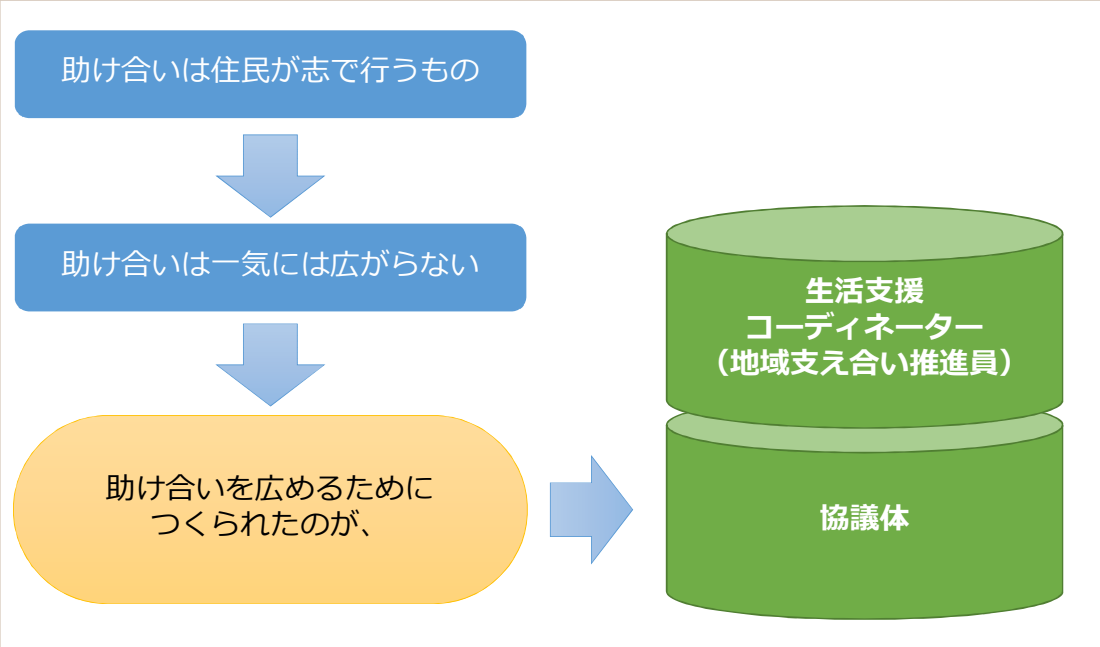
公益財団法人さわやか福祉財団
鶴山芳子

SC及び協議体の任務

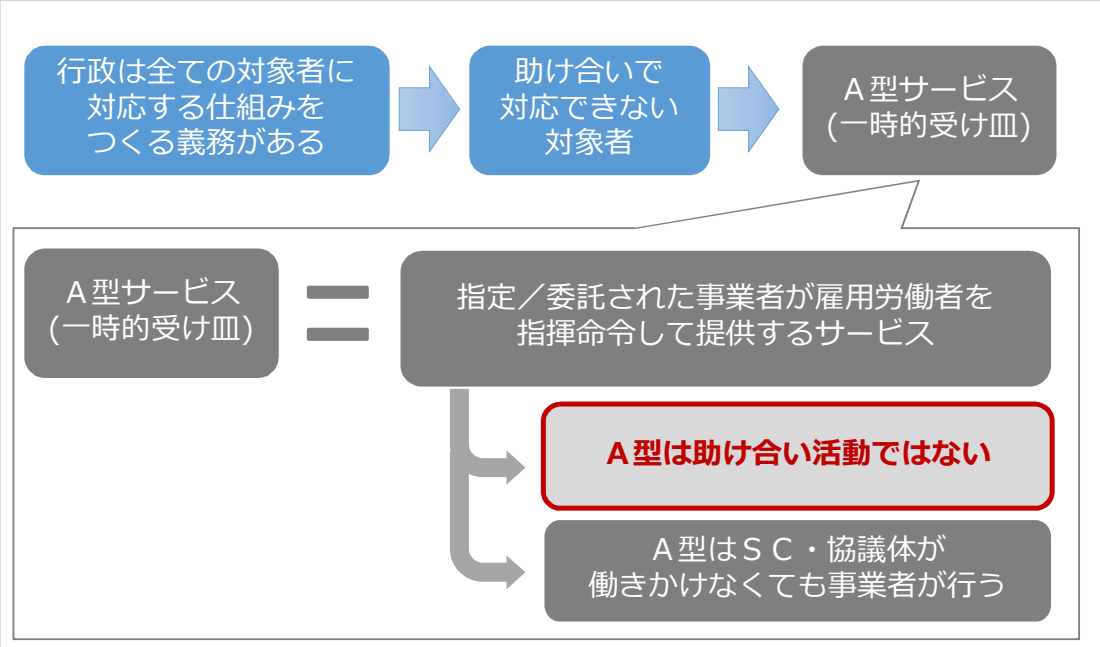
１．助け合いを広める効果



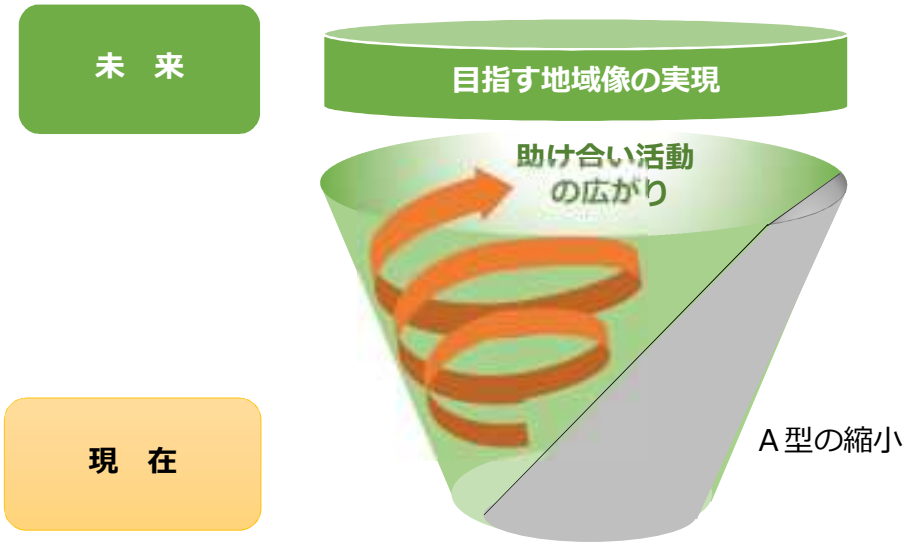
２．ＳＣ・協議体の任務は助け合いを広めること



３．Ａ型は助け合い活動ではない

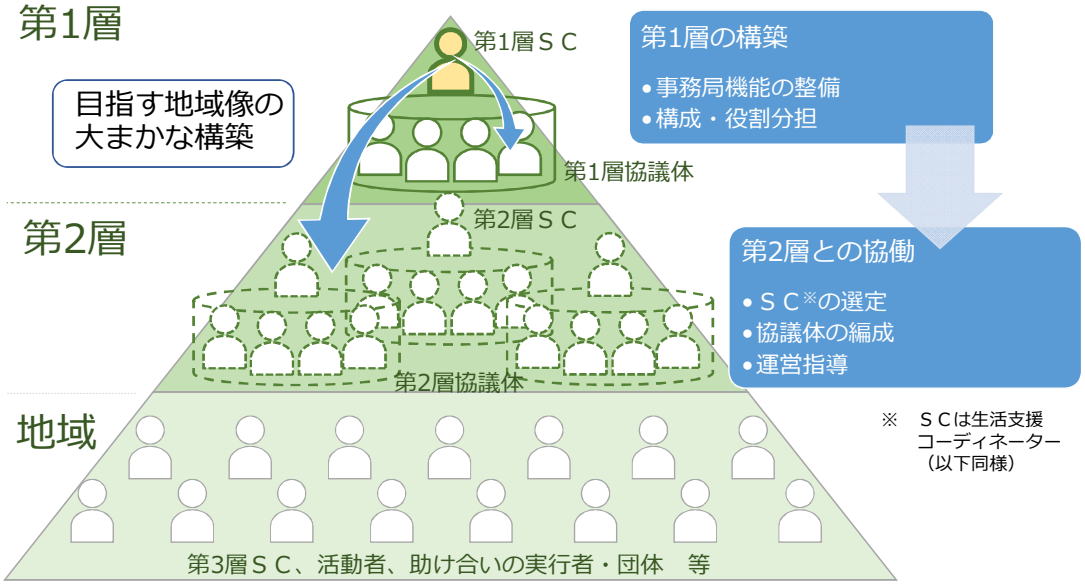


４．助け合い活動伸長のあり方



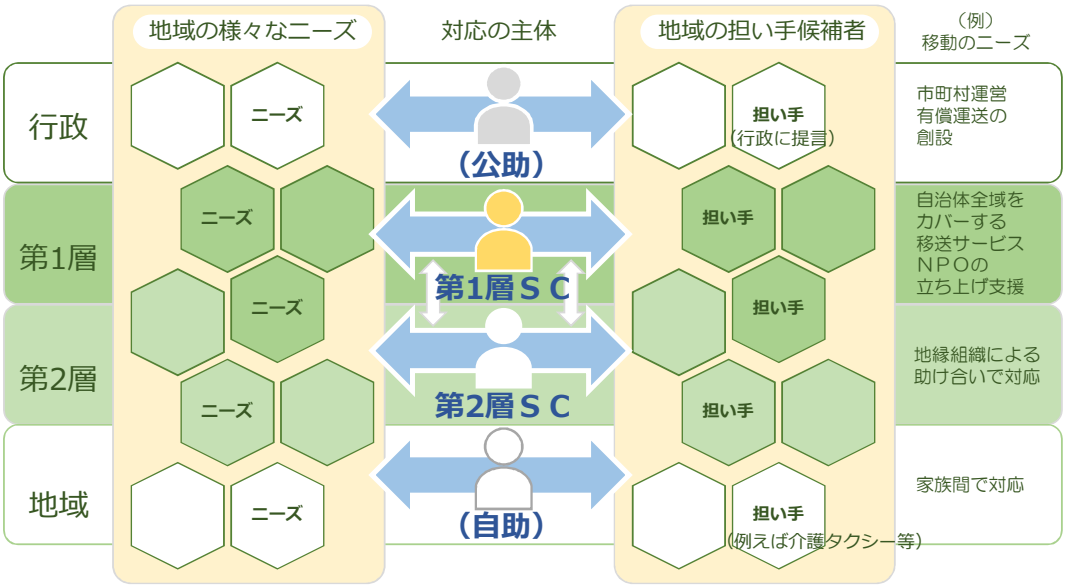
SC及び協議体の役割

ステップ ①：第1・２層協議体の基盤作り



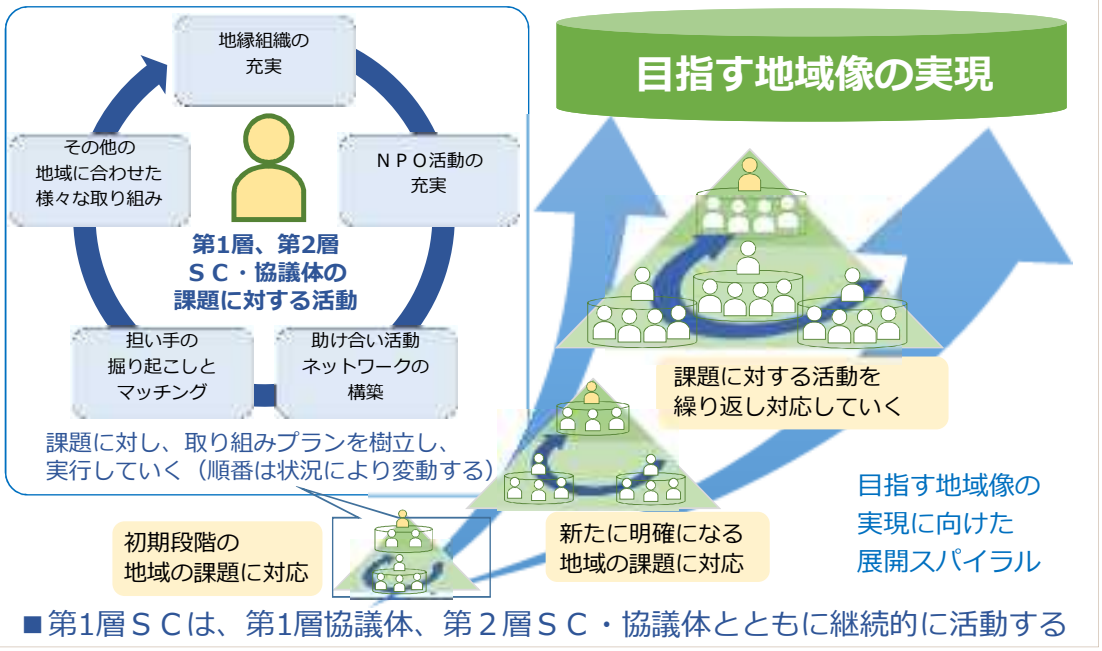
■第1層ＳＣは、第1層協議体の基盤を固めてから第2層の基盤作りに取り組む

ステップ ②：ニーズと担い手の掘り起こし、コーディネート



■第1層ＳＣは、ニーズと担い手のコーディネートを総括的に行う

ステップ ③：ＳＣ・協議体による地域の課題解決



■第1層ＳＣは、第1層協議体、第２層ＳＣ・協議体とともに継続的に活動する

SC及び協議体の選出モデル

目指す地域像の実現に向けて
「SC及び協議体の選出とそのモデル」

■ ベストプラクティス
- 以前から住民主体の活動に取り組んでおり住民との信頼関係ができている
- 地域づくりを推進できる幅広い分野の人材がわかっている

■ 多数派（多くの市町村）
- 住民主体の活動が根付いていない
- 地域のキーパーソンが想定しづらい

※2： P.8～11を参照

人口規模の**大きい**自治体
大づかみ方式による人選　※1
比較的規模の大きい自治体では行政から地縁組織やNPO等の分野ごとにキーパーソンに成り得る人材に向けた声がけを実施する
※1：P.6～7を参照

人口規模の**小さい**自治体
全戸周知方式による人選
規模が小さい（2万人以下程度）の自治体では、できるだけ多くの住民に呼びかけ適切な協議体とＳＣの人選を念頭に勉強会を何度か開催する

※2 全体勉強会の開催（3回程度）

協議体構成員の確定 → SCの選出

R20150316 公益財団法人さわやか福祉財団

○　大づかみ方式の基本原則

1：　地域の実情に応じて、足りないサービスで創出すべきものの分野を決める

サービス分野の決定は、関係者によるワークショップをベースに「あるべき地域像」を確定し、助け合いの足りない分野を浮き上がらせることによって行う。
分野が決まれば下記の２に進む。

2：　サービス分野ごとに、助け合い活動の創出、活性化をリードできるような人物を選ぶ

人選の手順については、次シート（P.7）で解説

○　大づかみ方式の人選の手順

①　リードする人物（※1）がわかっている時

できれば重要な関係者に確認したうえで、その人物を選ぶ

（※1）リードする人物とは、その分野の関係者等から信頼されている等、助け合い活動の創出、活性化をリードする人物

②　リードする人物がわからない時

ア．連合会、ネットワーク組織等があれば、その代表者に相談する
イ．それがない時は、主だった団体の代表者に相談する

当該分野に関連する分野の人物が情報を有している場合があるので、関係分野の人物が集まった会議等で協議することも有効

③　②の手段では適切な人物が選べない時

当該分野の関係者を集めて非公式の勉強会を開き、その分野の資源開発をリードできそうな人物を選ぶ（地縁活動については、この方式が求められる地域が少なくないと思われる）（※2）

（※2）　②の手段でリードできる人物が選べなかった場合について、都市の規模が大きいこと、あるいは選出までに時間的余裕がないこと等の理由により③の手段をとるのが難しい時は、これを割愛して④の手段に入る

④　③の手段でも選べない時

この分野での参加者を保留にしつつ、企業ＯＢ・ＯＧ、社協ＯＢ・ＯＧ等で、その分野の資源開発ができそうな人物を関係者が協力して選ぶ

④の手段をとる余裕もない時は、その分野の既存組織の代表者を暫定的に選出する

○　全体勉強会のテーマと資料（一例）　【第１回】

テーマ	この地域をどんな助け合いのある地域にするか
共通の理解を持つべき基本的事項	1. 助け合い活動を創出するには、関係者が目指す地域像を共通の目標としてイメージしなければならない（規範的統合） 2. 目指す地域像は、地域住民のほとんどが受け入れるものでなくてはならない（住民の共感） 3. 目指す地域の具体像は、幅（助け合いの量）、深さ（助け合いの質）ともに、参加する関係者の広がりや、関係者の意識の進化に伴って成熟していくものである（変動・進化性） 4. 目指す地域像は、その具体像としてはそれぞれの地域によって異なるものとなるが、その要素としては全国共通のものが少なくない
全国共通の要素	・誰もがいつでも気軽に集まる場所があり、日常的な助け合いが行われている ・地縁組織が、幅広く随時対応の助け合いを行っている ・NPO等が、地縁組織ではやれていないテーマ型（家事援助、移動、配食など）の助け合いを行っている ・地縁組織とNPO等が、ネットワークを組み、必要なサービスを提供している

○　全体勉強会のテーマと資料（一例）　【第１回】

協議する事項	**あなたの大づかみな感覚では、あなたの地域には、どんな助け合いが足りないと思うか。また、あなたがその助け合い活動を欲しいと思うのは、あなたがその地域をどんな地域にしたいと思うからなのか**

まとめ　　共通意見を、大まかな図面にまとめる
（2回目以降の勉強会で共有するため）

教材	助け合い活動創出ブックの「1.目指す地域像」 及び「2-1.足りない活動の 把握」（P.4～15）

注意事項
・協議に当たっては、人の意見を批判せず、建設的に意見を述べる

○　全体勉強会のテーマと資料（一例）　【第２回】

テーマ	生活支援コーディネーター（SC）や協議体構成員は何をするのか （基本的な共通理解事項）
任務	助け合い活動の創出とネットワーク化 （注）A型サービスは、対象ではない（P.3）
具体的には	1.　任務を果たすための基盤づくり 2.　ニーズの把握と担い手の掘り起こし、コーディネート ➡ 求められている助け合い活動の創出とネットワーク化
理解すべき事項	ニーズの把握や担い手の掘り起こしのためには住民の中に入ってよく意向を聴取し、共助の意欲を引き出す必要がある。また、助け合い活動を創出し、そのネットワークをつくるには、多様な住民や市民活動者の信頼が必要であり、したがって肩書き（権威）や理屈だけで遂行できる任務ではないこと
教材	・さわやか福祉財団テキスト「A型をどう考えるか」 ・さわやか福祉財団テキスト「生活支援コーディネーター及び協議体の選出」

○　全体勉強会のテーマと資料（一例）　【第３回】

テーマ	この地域を目指す地域にしていくには、どんな人を協議体構成員に選ぶのがよいか　（協議）
選定方法についての協議	1. さわやか福祉財団テキスト「生活支援コーディネーター及び協議体の選出」により選定方法のモデルを学習、自分の地域にはどの方式が望ましいかを協議する 2. ベストプラクティスの場合は、わかっているSC及び協議体構成員を書き出し、全員で確認する。足りない分野があればそれも確認し、その分野の選定方法を協議する 3. 全戸周知方式を相当とする時は、その実施方法を協議する 4. 大づかみ方式を相当とする時は、第１回勉強会のまとめ図を参考にして、足りない分野を協議。その分野について担当構成員を置くか否か、置かない分野はどう扱うか（分科会にするのか、協議体参考人にするのか等）について協議。さらに、各分野について、テキストを参考に、可能な限り具体化するように協議。望ましい人物像もなるべく具体的に記述する
まとめ	要旨をまとめて、選定責任者に提出すると共に、選定関係者でまとめた要旨を共有することが望まれる

第2層協議体の選出

ケース１：第1層SC※が第2層協議体構成員を選出する場合

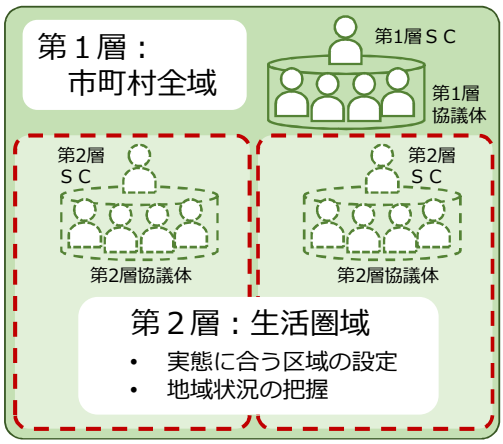
※　ＳＣは生活支援コーディネーター（以下同様）

1. 第２層の圏域を検討する

助け合いの視点から区域を設定する

検討例として

- 生活圏が共通しているか
  （創出すべき助け合い活動の特徴が共通している　等）
- 助ける人が歩いて通えるか



2. 地域の現状を把握する

既存の活動を把握し、
それらを活かした足りないサービスの創出を意識する

- 既存の活動は登録されていないものもあるのでしっかり把握する

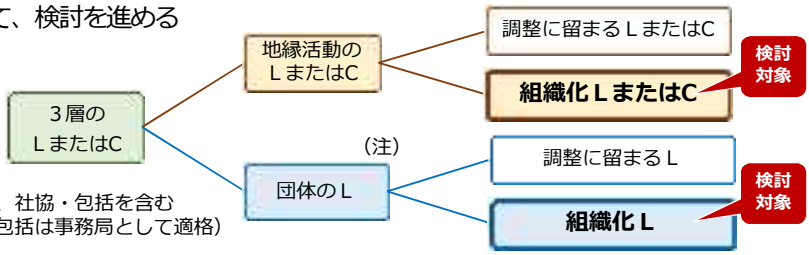
ケース１：第1層SCが第2層協議体構成員を選出する場合（続き）

3. 第2層協議体構成員とＳＣの選出

※ Ｃはコーディネーター
Ｌはリーダー （以下同様）

① 第３層で行われる助け合い活動のリーダー（Ｌ）またはコーディネーター（Ｃ）

- 第３層の助け合い活動にはＬやＣがいるが、「単なる調整役としてのＬまたはC」ではなく、それらの人物のうちから「助け合いの組織化を推進するＬまたはC」を候補者として、検討を進める



（注）団体には、社協・包括を含む
（社協、包括は事務局として適格）

② 基本原則（大づかみ）により選出する

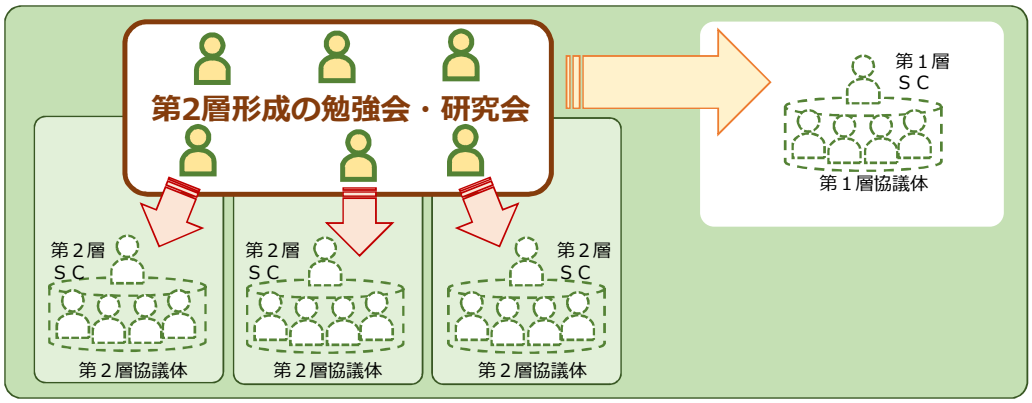
- ただし、1層協議体の構成員の中から基本原則による選定をまず行ってみる

ケース２：第1層が無く、第2層から編成する場合

1. 協議体・ＳＣの選出原理は1層と同じ

原則（大づかみ）で第2層形成の勉強会・研究会を開催する

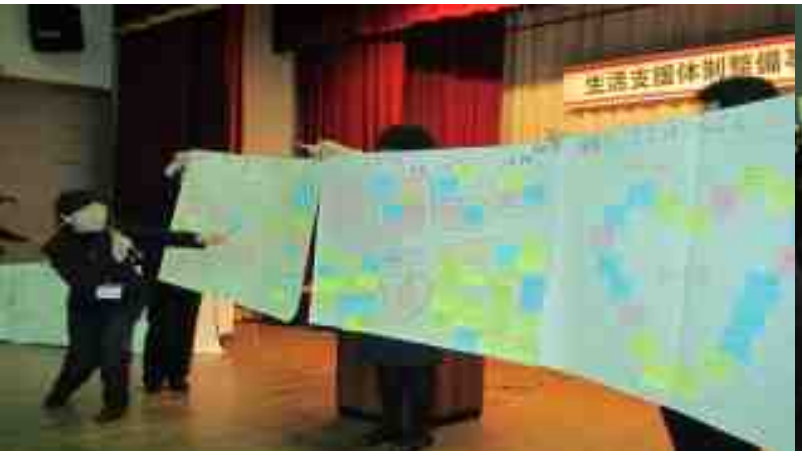
- 2層区域ごとに研究会をするのではなく、全域にわたって合同して行うことも可
- 全域にわたる研究会は、あわせて1層形成の研究会にもなる



ステップ①　体制づくり

仙北市（大づかみ方式）

第1回　平成27年10月26日　「目指す地域像」共通理解
第2回　平成27年11月24日　「SCと協議体の役割」
　　協議体の構成員
第3回　平成28年1月22日　「協議体の選出」



第3回研究会

協議体の選出
（1月22日）

協　議

「協議体、生活支援コーディネーターの選出について」(80分）

進行　研究会　会長

来年度　市民への啓発フォーラムを検討している

まとめ

1．目指す地域像

【つながり・ふれあいのある地域】
地域の住民が、どんな状態になっても、ふれあいの絆の中で自らの能力を最大限に生かしながら、生きがいをもって主体的に暮らし、尊厳が保持されている。

2. 目指す地域像に向けた足りない助け合い活動

除雪支援

- 屋根の雪下ろし
- 除雪にお金がかかる
- 除雪車が置いて行く雪寄せが大変
- 冬囲いしてもらいたい
- 流雪溝への雪運びが大変
- 単身世帯が多い
- 除雪ボランティアがほしい

移動支援

- 通院、夜間の救急医療体制
- 通院、移動にお金がかかる
- デマンドタクシーのエリア拡大
- 乗り合いタクシーの構築
- 店、金融機関までが遠い
- 集いの場まで連れて行ってほしい

安否確認・見守り

- 高齢独居宅への訪問
- 近隣同士の声かけ
- 見回りをしてくれる
- 災害時の支援
- 困った時SOS出せる(場、人がわからない)
- いつでも挨拶のできる町内であること
- 状況把握
- 薬の飲み方を確認してもらいたい

居場所・サロン

- 気軽に集まれる場所がほしい
- 世代を超えた交流、集える場所がほしい(放課後児童クラブに)
- 高齢の男性が外に出て来られる場所がほしい
- 子どもが少なく遊ぶ場所がない
- 話し相手、誰かがおしゃべりに来てほしい
- 認知症カフェ
- 公民館、空き家の活用
- 高齢者の働きの場

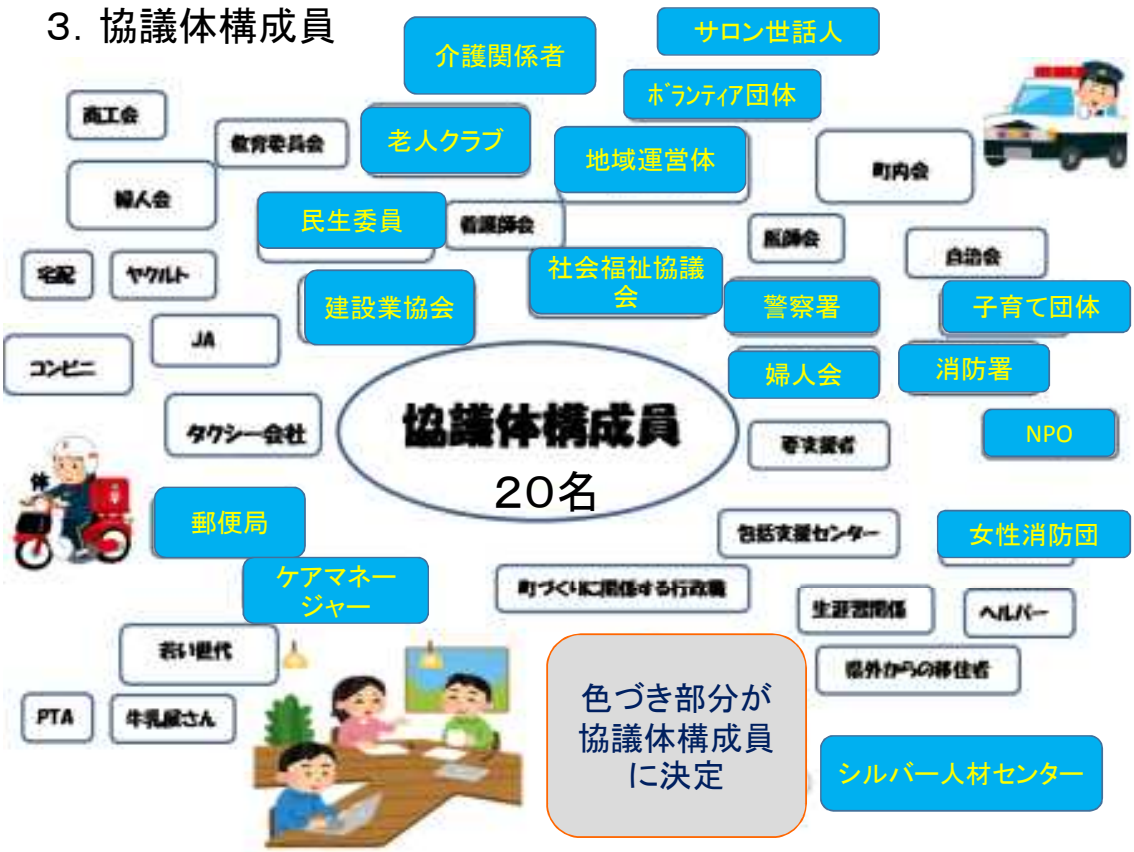
家事支援

- 洗濯の手伝い
- ゴミ集積所の管理(補修、除雪)
- 町内活動の役割
- 畑仕事、草取り
- 電球交換
- 高い所、お墓の掃除
- おかずをもう一品作ってほしい

その他

- ペットの世話
- 家が壊れた時直してほしい
- 銀行や郵便局に代わりに行って手続きしてほしい
- 役所から来た書類を一緒に確認してほしい
- 銀行等への支払い

3. 協議体構成員



4. SCの選出

リーダーシップのとれる人

公平に物事を判断できる人

明るい人

人望のある人

信頼できる人

元保健師

元ケアマネージャー

熱意のある人

研究会の委員の中で検討し、選出された

新潟県阿賀野市
地域包括ケアシステム構築のための庁内推進会議の開催

（平成29年10月29日）

目的：介護保険法改正に伴うサービスの構築や地域ささえ合い活動の必要性について庁内関係各課で共通認識をはかり、生活支援サービス提供準備委員会（協議体）、生活支援コーディネーター設置に向けて協力体制を組んでもらえるよう開催する。

対象：総務課（庶務係、地域安全係）市民生活課（相談係、環境係）社会福祉課（福祉企画係、援護係）、健康推進課（健康づくり係）、税務課（収税係）、市長政策課（ 企画経営係）、市民協働推進（市民協働推進係）、地域医療推進課（地域医療推進係）、建設課（建設係）、商工観光課（商工振興係）、農林課（農林企画係）、学校教育課（ 学校支援第二係）、生涯学習課（社会教育係）、高齢福祉課（高齢福祉係、介護保険係）、上下水道局（営業係）、消防本部　　・・・・計20名

アンケートから一部抜粋

◎共通の認識とやる気あれば出来る事が思ったよりもある印象でした。

◎他課の方々のご意見をお聞きし色々な視点からのサービスが必要だと改めて思いました。

◎地域の支え合いが大事である事を改めて感じました。

◎包括支援はあまり考えていなかった事ですが、地域に密着した助け合いが必要なんだと思いました。　　など

ステップ②　ニーズと担い手の掘り起こし

市民向けフォーラムの開催

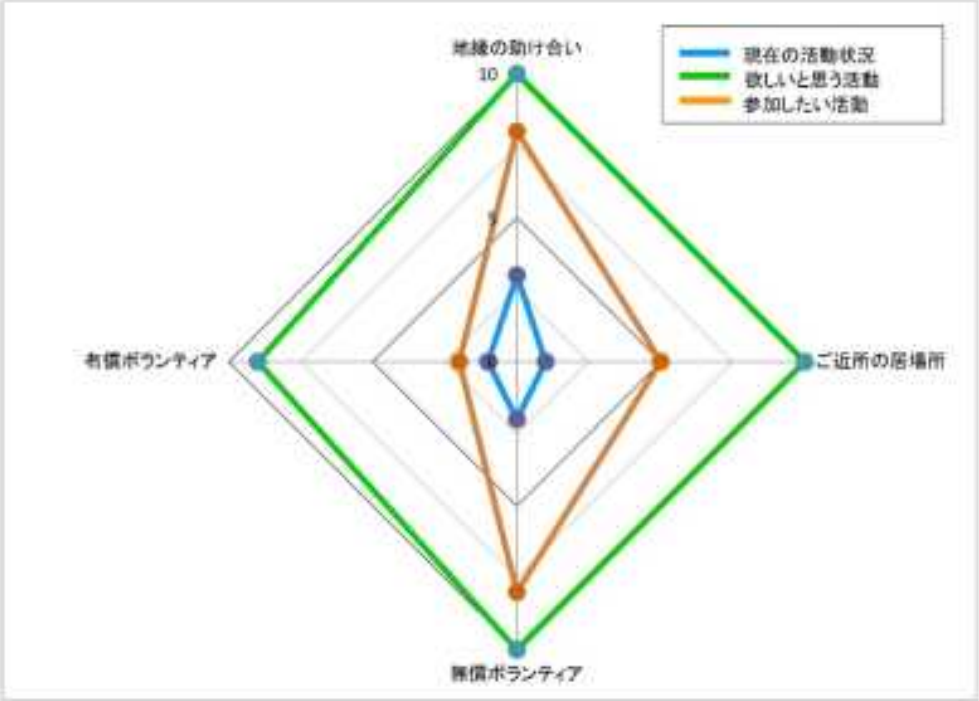
助け合い見える化チャート

○ 自分が住む地域でのサービスの充足状況をカードをあげて数をカウント

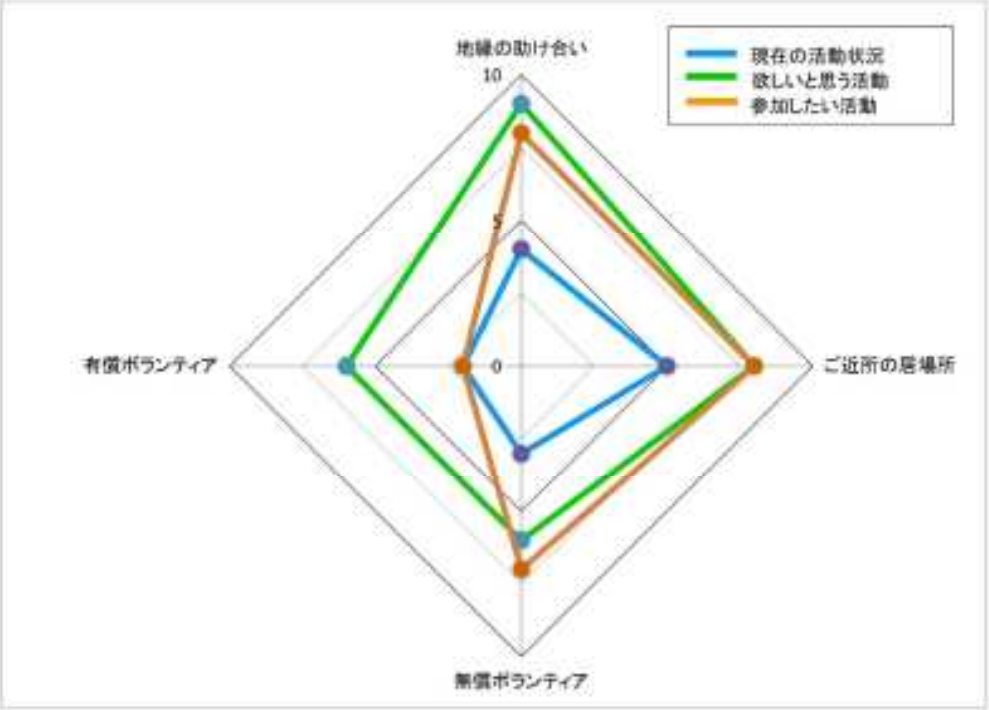
○「地域にある」「地域に欲しい」「活動に参加したい」の３点を確認

○ 図式化して全員で共有することで、地域の状況を視覚からも理解する

見える化チャート① 神奈川県茅ケ崎市



見える化チャート② 新潟県新潟市



各地のフォーラムで生活支援コーディネーターを紹介

鹿児島県鹿屋市市民フォーラム
2017年1月15日
「助け合い見える化チャート」

（左から　堀田さん、手話通訳、市長、第1層SC）

新潟市市民フォーラム　2017年1月24日
第1層8名の紹介

天草市フォーラム　2017.02.19

SCが寸劇で役割と自己紹介

ワークショップの実施

○ 住民による少人数のグループで地域課題の抽出と解決策の協議を行う
○ ＫＪ法による協議の中で「自分にもできることがある」ことに気づくことができる
○ 模造紙にまとめた解決策を発表することで、全員で情報共有する

ワークショップの課題

○ 課題について考えたことを付箋に記入し、発表しあう
○ 同様の意見をまとめ、模造紙に整理していく
○ 課題は「地域の状況」「住民意識」等によって変えていく

○ ワークショップの課題の例

課題1	「目指す地域像」 あなたが住みつづけたいまちは、どのようなまちですか？ 10年後、20年後を想像して、できるだけ具体的に考えてください。
課題2	「活動への参加」 今、地域に足りないと思う活動は何ですか？ その活動のために、あなたにできることは何ですか？

長崎県新上五島町

第2層生活支援コーディネーターの誕生

第2層生活支援コーディネーターは、社協の職員である。

立ちはだかる大きな壁

SC専任ではなく、地域福祉担当、団体事務、支所会計、介護業務の補助などの仕事を兼務している。

また、生活支援に対しての知識不足、社協職員としての経験不足、地域住民に対しての周知不足などで、どうしていいのか立ち止まっていた。

第2層協議体の選出

第2層協議体には、SCと一緒に地域の助け合いの仕組みを作るために、協力をしてくれる仲間を探した。

第2層SCがそれぞれで、声をかけて、仲間になってもらった。

民生委員、老人クラブ、地区長などが多い。

長崎県新上五島町　第２層協議体選出に向けて

勉強会の開催（ワークショップ形式）

この勉強会を踏まえて、各地でWSが開催されることになる。

助け合い体験ゲームは、場を和ますのに最適！

ワークショップ（WS）の始まり

新上五島町
地域座談会
よってみっか　2016

ワークショップ（WS）の始まり

時間	プログラム	内容	担当	準備物
	受付	受付開始 受付用紙に、氏名、地区名を記入 番号札を渡す 海外・遠隔 地区に連絡する	【受付】 【海外】	受付用紙×3 筆記用具
	開会 （ 5分）	開会の挨拶 諸注意 （写真撮影について） （熱中症対策の徹底）など説明	【実行委員会】 【説明】	台帳表 （熱中症のスクラップ）!
		日程説明 ・全体の日程 ・本日の日程	【説明】	
		スタッフ紹介 ・自己紹介 ・役割名、服装、お昼ご飯時間の了解を得る	【自己紹介】	
	名札つくり （ 5分）	名札つくり 出来た人から	【説明】 【完成】	名札入れ袋（ひもつき） 名札（ペン）
	自己紹介 （10分）	グループ内で自己紹介をする より自己紹介を円滑にするために自己紹介をする。 1）挨拶をする 2）自己紹介 3）ジャンケンをして勝った人は勝った人に質問を渡す グループ内の全員と自己紹介が終わったら着席する。	【説明】 【完成】	自己紹介の内容については自分に任せます。 3）については、その人の状況により変更の	
	挨拶を始める	その場の流れで始めてください	【説明】	今後の挨拶の参考に使う
	体験ゲーム （20分）	「助けたい体験ゲーム」 ①テーブルごとにカードを配布 その中から自分がしてもらいたいカードを2枚選ぶ。 ②この2枚のカードを持ちながら、その体験をしてくれる人を探し、交渉する。 ③終了したこと、知りたいことをはしどりでグループ内で、話し合う。 時間が上手く使けられた上手な動かする。	【説明】 【完成】	体験ゲームセット 体験者には、各グループ毎のアクティビティをする ・あくまでもゲームなので、気楽に楽しんでください。

新上五島町
地域座談会
よってみっか　2016

時間	プログラム	内容	担当	準備物
	ワーク1 （ 5分） （10分） （10分）	「地区の気になること」探し 1）個人作業 付箋紙に地区の気になるところ書き出す。 ・できるだけたくさん！ ・短より量の勝負です！ ・どんな些細なことでもOK！ 2）グループ内発表 個人作業で思いたことを発表 ・思いた内容を発表する ・発表内容については、批判や否定をしない 3）グループ内検討 ・区分けをみんなで検討する	【進行】	付箋紙（白） フェルトペン 模造紙にあらかじめ区分けを書いておく ○○はたらできそう ○○&○○Meれば ○○者に相談する 【付箋】 グループワーク検討用用紙 模造紙の区分けに思いと思う箇所に貼っていく
	ワークII （ 5分） （10分） （10分）	「どんなことができる？」 1）個人作業 自分たちでできそうことのところに、私ができることを探して、何ができるかを付箋紙に書いていく。 2）グループ内発表 個人作業で思いたことを発表 ・思いた内容を発表する ・発表内容については、批判や否定をしない 3）グループ内検討 ・付箋紙の貼りを読んで、タイトルをつける。	【進行】	付箋紙（緑） フェルトペン 模造紙 現在、できることは、どんなことでも書いてください。 昨日の「地区の気になること」を参考に、 1）で思いたことを書く。 時間内に、分類が多い場合は、「誰かができそうな場合」「地域の」「どんな」を考えて付箋紙に記入、貼り付ける。
	（10分）	全体発表 ワークIIの内容を、各グループ発表する	【進行】	地域の課題を話する
	まとめ （10分）	参加の感想 アンケートの記入の呼掛け		アンケート用紙は自宅に置いて
	あいさつ （ 5分）	挨拶のあいさつ	【実行】	
	終了	後片付け 次回		

長崎県新上五島町奈摩地区

座談会（ワークショップ）

ニーズと担い手の掘り起こし

ステップ②　ニーズと担い手の掘り起こし

ステップ③　助け合いの創出

４. 従来型地縁組織とは別に新型組織をつくった事例（続）

山形県東置賜郡川西町吉島地区（約750戸）　**NPO法人きらりよしじまネットワーク**

- 平成14年、5人の住民が地域の将来についての危機意識を共有したことをきっかけに、周囲の住民に働きかけを開始。平成16年、地域にある各種団体が、それぞれに「将来的な会計の一元化と地域全体でのNPO法人格の取得」を決議し、全世帯加入のNPO法人の設立が決定された
- 同年、地域住民が広く参加するためのワークショップを開始、多くの住民が話し合いに参加し、30年先を見据えた地区計画を策定した
- 自治会、商工会、地区社協などもNPO法人の部会の中に組み込まれ、各部会に分かれた組織の中で各種の事業を展開している

町の人口	約　16,600人
高齢化率	31.14%

（きらりよしじま資料）

人をつなげる（出会いの場）

「地縁」

昔ながらの
人のつながり

「志縁」

地域をもっと元気にしたい人のつながり

目的をもって組織を立ち上げた人のつながり

「知縁」

目的を達成すためにに
知恵を出し合う人のつながり

（きらりよしじま資料）

（きらりよしじま資料）

悩みや課題は抱えているが・・・

手抜きと合理化は紙一重！

1. 人材不足　＝　育成しない

人が　どんな人　仕方が？

2. 活動資金不足　＝　営

話をしない　報告書

3. 参加者の減少　＝　少ない

企画　運営力　周知しない

おもしろかこ

策を講じなければ前へは進めない！

（きらりよしじま資料）

気兼ねなく利用

元気な高齢者も担い手の一人

お助けチケット
買い物券 700円
お掃除券 700円
お洗濯券 700円
草むしり券 700円
お散歩券 700円

（きらりよしじま資料）

買い物ツアーサービス

（きらりよしじま資料）

よしじまっ子見守り隊

公募隊員47名
青パト部隊14車両
・朝夕の立哨
・学校巡回

（きらりよしじま資料）

よしじまっ子おはよう隊

（きらりよしじま資料）

ワークショップ（WS）をうまく活用して住民参加を！

◎話し合った結果を地区の計画づくりに使う

➡ 意見が反映されることで住民は「言ってみるもんだ！」と**満足**する

➡ 参加してよかった実感を持った人が、次のWSで仲間に声をかける

「事業に参加して満足した人」を「コアリーダー」とし、コアリーダーが地域のつなぎ役となり、支え合いや助け合いを広げていく

人を拾い上げる

➡ 過疎地における結の関係を取り戻す方法！

（きらりよしじま　高橋由和事務局長）

◎呼びかけは、地区の役員、民生委員、老人クラブなどに声をかけ、その人たちから地域住民に声をかけてもらう

（新上五島町　第１層SC　田島氏）

過疎地でのしかけ

➡既存の仕組みを生かしながらも10年先を考える

ステップ②　フォーラムで住民の理解を進め、そこから一本釣りをする

ステップ①　アンケート記名者も含め、関心あるメンバーで体制づくりの勉強会を開催

小値賀町の概要

・ 五島列島の北、佐世保市の宇久島（旧北松浦郡宇久町）と新上五島町の間に位置し、小値賀島とその周辺に散在する大小17の島（小値賀火山群島）からなる。

・ 10月末現在・・・・・・ 人口 2，587人

世帯数・・・・・・・・・ 1，298世帯

内 高齢者のみ世帯 ・・・・・ 216世帯

独居老人世帯・・・・・・・・ 188世帯

約3割が高齢者世帯

SC・協議体の選出勉強会での気づき

日時 平成28年8月3日（水）18：30～ 会場：役場会議室

役場から通知を出し、勉強会を実施。
しかし、・・・集まった人は7名（隣の宇久島も参加）

座談会に切り替え、「何のための勉強会をするのか」「助け合いを広げる協議体メンバーにはどんな人達に呼び掛けたらよいか」など話しあう。

「役場で夜集まると、何かさせられるのではないかと警戒したのではないか」などの意見もあり。

フォーラムで多くの住民に理解を伝え、その中から協議体メンバーを一本釣りしよう！
次回はフォーラム実行委員会としよう！

フォーラム実行委員会を2回開催

（目的）フォーラムの実行と協議体メンバーの核づくり

＊周知：一人でも多くの人の参加を！どうする？

「助け合いはあたりまえ。今さら・・・集まるかな～」

「地縁、血縁（親戚）、集落、同級生など絆強く、 助け合って暮らしている」

要介護2か3になるとたいだいが施設にはいるよ

10年先はどうですか？みんな年を重ねますね・・

不安だな～

＊内容案をみんなで確認。

「3時間!?15時半はみんな夕食準備で帰るよ」

「パネルはやめてほしい」

大丈夫、楽しく飽きさせません！

「長くて1時間半だね」

意義を伝えるにはこれくらい時間が必要。地元の人達が登壇した方が身近に感じ、そして自分ごととして考えてくれるでしょう。

過疎地での仕掛け

長崎県小値賀町

人口　約2,600人
高齢化率　約48％

集落、血縁、同級生の縁など絆が強い→「助け合い」はあたりまえ
要介護2～3でほとんどの人が施設に入り暮らす

10年後になると絆も不安・・

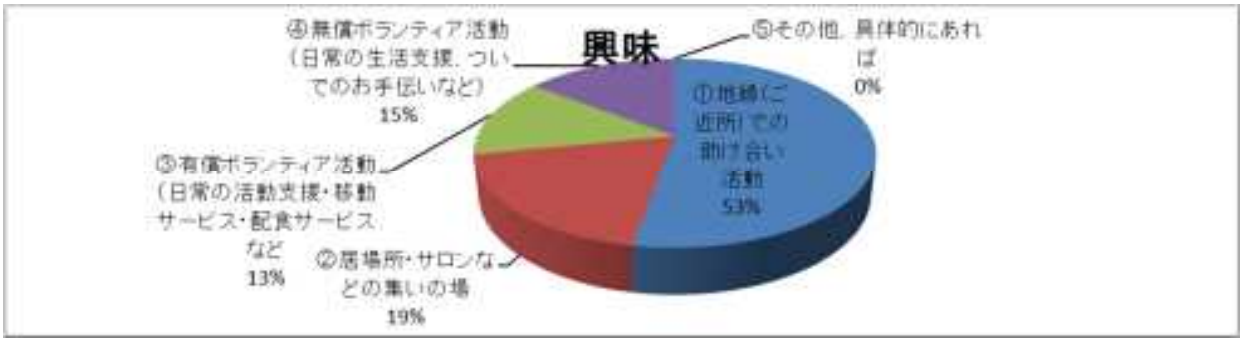
最後まで自宅で暮らすための助け合いの仕組みをつくろう！

小値賀町地域づくりフォーラム

※フォーラムのアンケートで、関心と希望を記名式で聞く→勉強会の開催へ

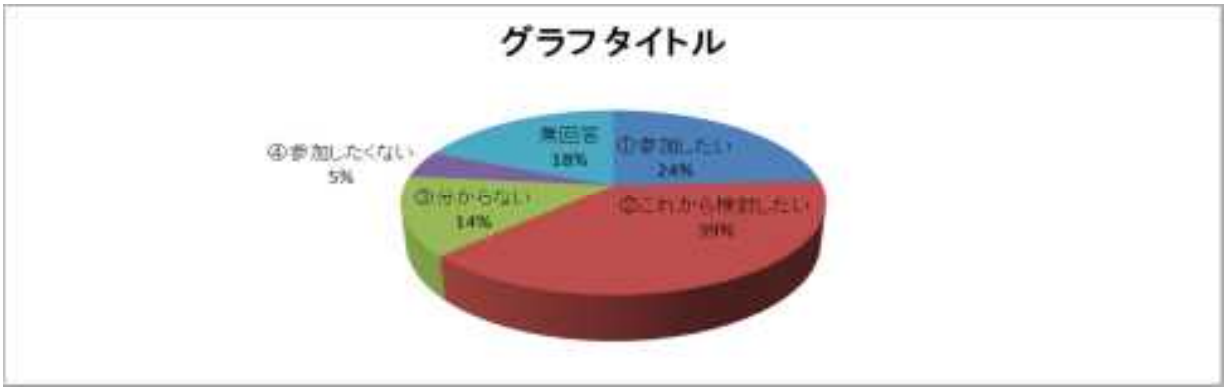
問５　ぜひ参加してみたいまたは取り組んでみたいという助け合い活動はありますか？（複数回答可）

①地縁（ご近所）での助け合い活動　94
②居場所・サロンなどの集いの場　34
③有償ボランティア活動（日常の活動支援・移動サービス・配食サービスなど 24
④無償ボランティア活動（日常の生活支援、ついでのお手伝いなど）　26
⑤その他、具体的にあれば 0



問6　助け合い活動を支える協議体の参加についてどう思われますか？

①参加したい	31
②これから検討したい	50
③分からない	18
④参加したくない	6
無回答 24	→１１月２８日　協議体選出の勉強会予定



第1層SC・協議体選出勉強会

日時：11月28日（月）18：30～
場所：小値賀町役場　会議室

フォーラムでのアンケートに記名した人
若者など約20名が参加！！

居場所＋有償ボランティア

絆からお互いさまの助け合いへ

実家の茶の間　＋「実家の手」

新潟県新潟市

市の人口	約　805,665人
高齢化率	26.8%

地域包括ケア推進モデルハウス（『実家の茶の間』協働運営）

新潟市 地域包括ケア推進モデルハウスとは

子どもからお年寄りまで，市民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちの実現を目指し，支え合いのしくみづくりをすすめるための拠点として設置している新潟市のモデル事業。市が空家を借上げ，任意団体「実家の茶の間」との協働運営で開設している。
河田珪子氏のノウハウを継承・波及していく新潟市の地域包括ケアシステム構築の要（かなめ）。

＜物件データ＞
住　所：新潟市東区紫竹４丁目２１－６２
間取り：９ＳＬＤＫ（建物面積２８８㎡）
駐　車：６台
築　年：昭和４４年

実家の茶の間の理念

『実家の茶の間』は人と人がつながる場。
人と社会がつながる場。
人の役に立ち，自分のを活かす場。
一方的にお世話をしたり，されたりするのではなく，気軽に助け合える場。
『実家の茶の間』の利用者とはサービスの利用者ではなく，“場”の利用者です。

- ◆毎週月水曜日（祝日も開催）
- ◆午前10時～午後4時まで
- ◆参加料300円（茶菓代）
  - ※こどもは無料
  - ※紫竹以外の方　年会費2,000円
- ◆食事をされる方別途300円
- ◆毎月第3水曜は保健師によるこころやからだ，暮らしの相談会を開催。

『実家の茶の間・紫竹』の取組み（みんなが作り上げていく居場所に）

参加者自らが役割を見出しながら，建物改修や地元周辺地図，本日の献立表の作成を率先して手伝う。

当番は手挙げ方式で，できる人ができる時に。当番表は自主的に名前を書き込むだけにしていても，大体いつも埋まっていく。

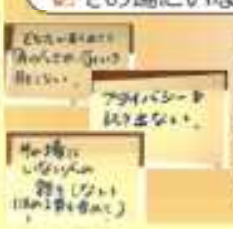
茶碗やマグカップではなく紙コップを使うのは，衛生管理につながるほか，自分の名前をマジックで書くことで，名刺の代わりにもなり，相手の名前がすぐ分かり，会話もはずむ。

寄付物品による即売バザーも行い，運営費に充てている。また，エプロンやストーブ，冷蔵庫などは地元企業からの寄付。

参加者は日平均20～40人，午前10時から午後4時まで出入り自由。

みんなの決まりごと

- ☑どなたが来られても「あの人は誰？」という目をしない
- ☑プライバシーを訊き出さない
- ☑その場にいない人の話をしない



『実家の茶の間』には，互いに思いやりながら，心地いい場所を作るためにいくつかのルールがあり，さりげなく壁に貼り紙が掲示されています。その他，「エプロン専用は台所だけ」や，「上座や下座を作らない」など，居心地の良さに妥協しないのが河田さんのセットーです。

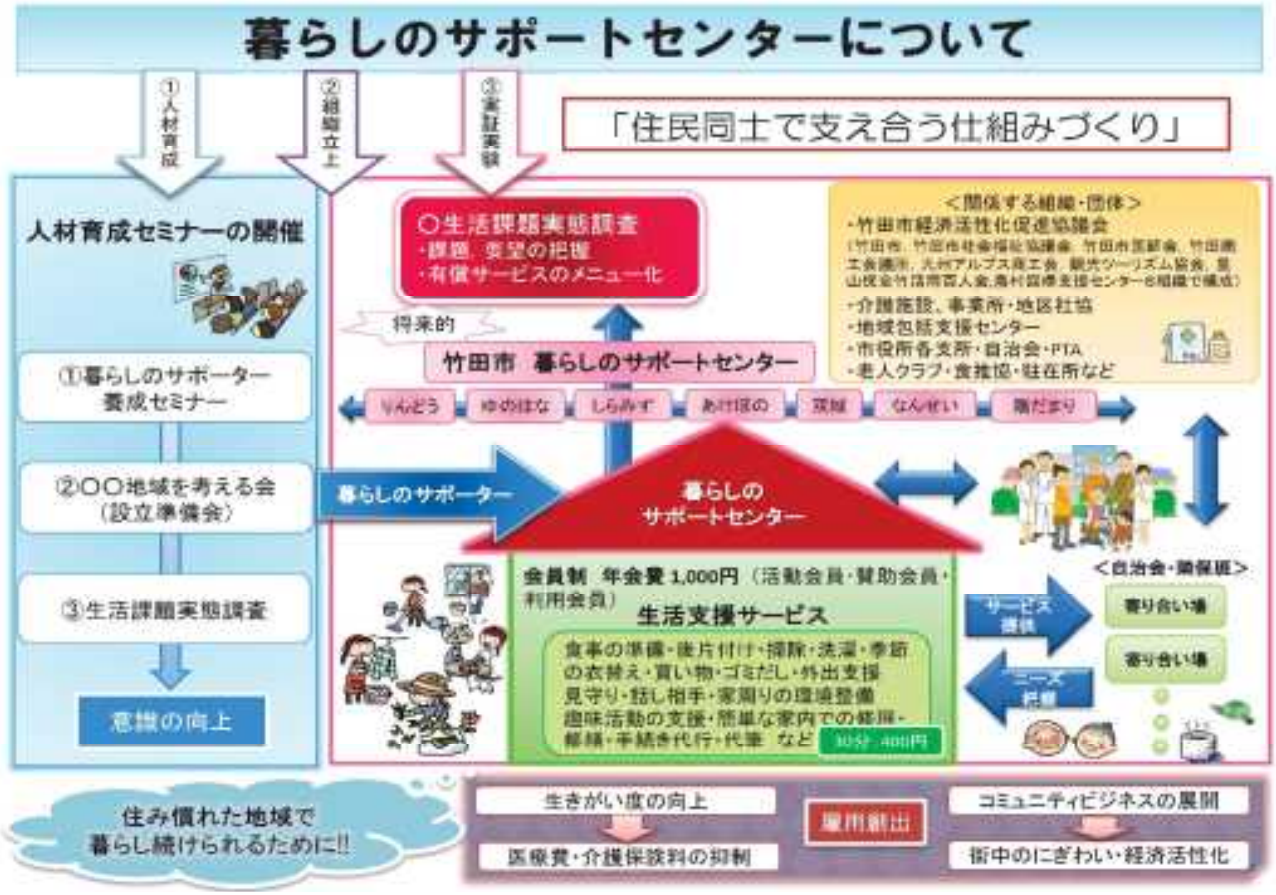
代表　河田珪子さん

寄り合い場＋「生活支援サービス」

大分県竹田市（暮らしのサポートセンター《くらサポ》）

竹田市

市の人口	約　23,343人
高齢化率	42.37%



「住民同士で支え合う」地域づくりのお手伝い

暮らしのサポートセンター について

暮らしのサポートセンターは、地域住民の支え合いの気持ちを基本とし、安心して暮らし続けることができる地域づくりを目指して活動しています。暮らしのサポーター養成セミナーを受講した地域の方を中心に、介護保険などの公的サービスだけでは補えない、**暮らしのちょっとしたお困りごと**を、できる時にできる範囲でお手伝いします。

寄り合い場 いつでも誰でも気軽に立ち寄ることができる「地域のお茶の間」	・平日　9時～17時 （土・日・祝日を除く） ・参加は無料です。ご近所お誘いあわせで、自由にお過ごしください
くらサポ広場 介護予防教室や健康づくり教室、レクリエーション、楽しいゲーム、カラオケ　など	・毎週開催：10時～15時 ・参加料300円　昼食300円 ・送迎があります ※詳しい日程は、お問い合わせ下さい
「ちょっと困り」のお手伝い（有償生活支援サービス） 買い物支援、家事援助、話し相手・見守り、外出支援、ゴミの分別、ゴミだし、季節の衣類整理、草取り・草刈り、軽農作業　など	・1時間800円、30分400円 （草刈りなど機械使用時は30分毎に100円加算） ※広場と生活支援サービスをご利用になる際は、会員登録をお願いします。（年会費1000円）

▲昼食は１食300円
調理ボランティアさんは２人合わせて１５６歳！

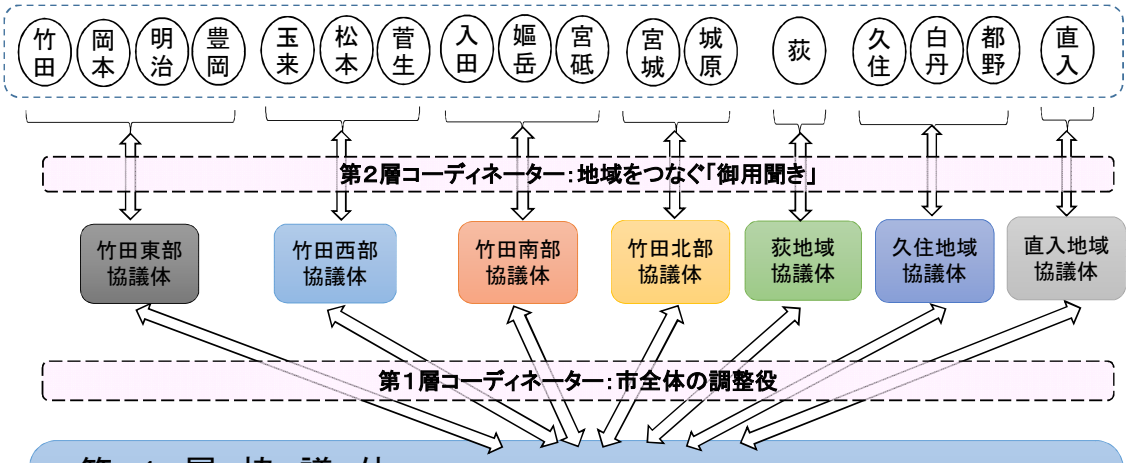
◀生活支援サービスで行っている障子貼り

官民協働の地域づくり

協議体と地区社協との関係

・17地区社協（小学校区単位）を核とした地域づくり
・地区社協では、地域行事や日々の見守り、敬老会、配食など地域に密着した活動を展開
・「こういう地域になったらいいな」という「目指す地域像」をみんなで共有
・地域単独では解決できない、より広い範囲での課題や、生活支援に関する困りごとへの対応策、地域に必要な活動、団体をどうやってつないでいくか等を第2層で協議していく

地区ごとに「よっちはなそう会」を実施 （地区社協構成メンバーを中心に、地域活動に興味がある方など誰でも参加可能）



第 1 層 協 議 体

行政、市社会福祉協議会、包括支援センター、社会福祉法人、地区社協役員、地縁組織役員、医師会、民間企業など、多くの意見を取り入れられるよう、今後協議していく

・第2層間との情報共有、第2層のバックアップ
・第1層構成団体内の情報共有、調整、横の連携
・市全体での資源開発、サービスの創出
・高齢者だけでなく、障がいのある方、子育て世帯など、様々な視点からの地域づくり

	居場所	有償ボランティア
人	お互い様 ・中心メンバー（リーダー、当番など） ・来る人 助けるほう助けられるほうの区別なし	・中心メンバー（リーダー、スタッフ） ・利用者、協力者（双方向会員制）
もの	・自宅、ベンチ、空き店舗、空き家、借家 学校の余裕教室、公民館、集会所、 移動居場所　等	事務所、電話はじめ事務用品 PCなど
おかね	・ほとんどなし（自然発生タイプの場合） ・行政等の支援（立ち上げ、修繕など） ・参加費、（年会費）、寄付金、余剰金等	・年会費　・入会金　・賛助会費 ・チケット購入による利用費⇔謝礼金・事務所寄付金 ・行政の支援（立ち上げ、修繕等）　・寄付金　等
情報	・生活支援コーディネーターやボランティア センターなど様々なところに紹介をしてもらいながら取り組む 参加者が集まるのは口コミが一番	チラシなどを作り、地域に発信する

地域の支え合いづくり
ケアネット活動

（富山県社会福祉協議会）

※富山県社会福祉協議会ホームページより抜粋
（15市町村で実施）

目　的

- 軽い認知症のひとり暮らしの高齢者
- 昼間、ひとりで家にいる高齢者
- 閉じこもりがちな人がいる世帯
- 子育てに不安をもっている世帯
- 心身に障がいを持つ方や支える家族の方
- 今は大丈夫だけど、将来が心配な方や世帯

　など、要支援者・世帯とともに、地域住民、専門職（機関）が一緒になって課題解決を図ることです。

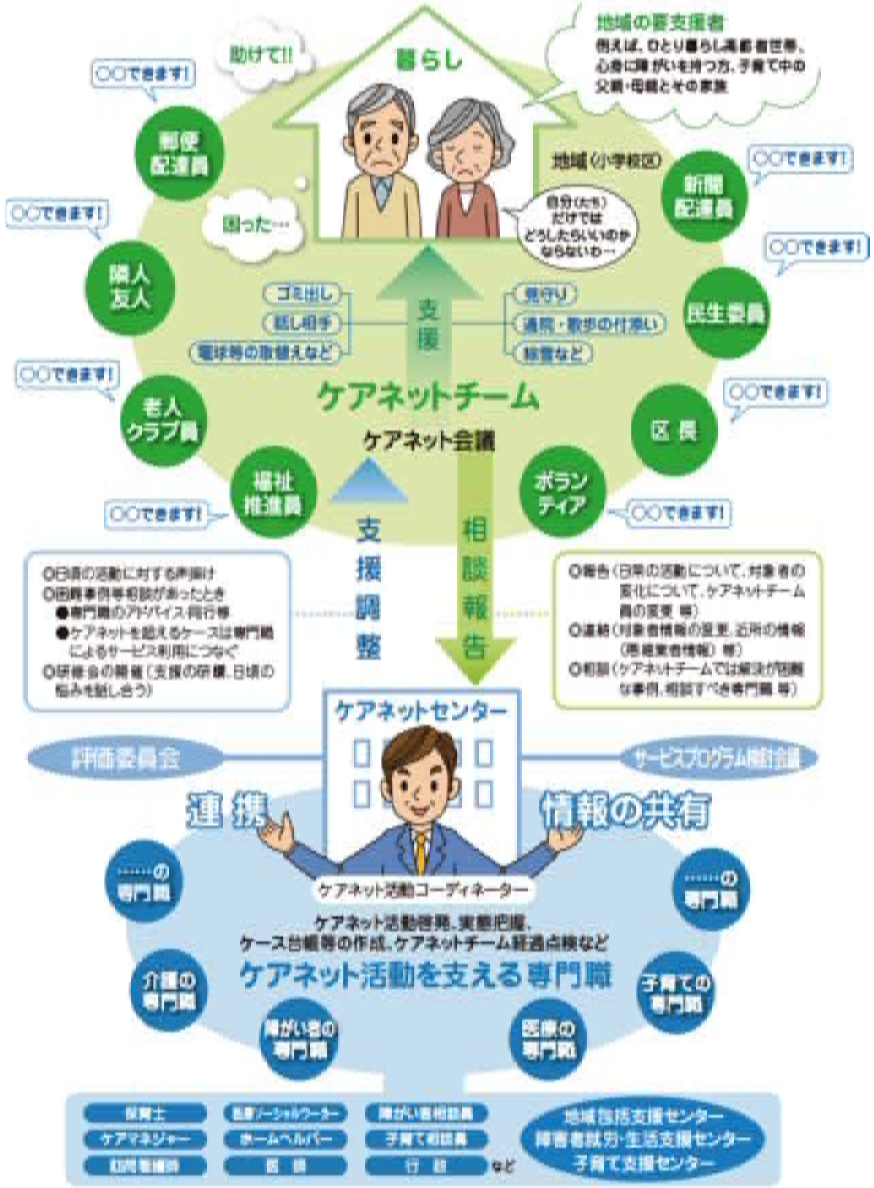
　また、地域のニーズを把握し、その解決に取り組む活動を通じて住民参加による福祉コミュニティづくりを推進することです。

ケアネットチーム

- 地域住民でチーム(３名程度)をつくり、要支援者の生活上のニーズを把握し、その人が、その人らしい生活を送れるよう日常生活を支援します。

- 困難な事例に関しては、ケアネット活動コーディネーターが専門職（機関）との調整にあたり、ケアネットチームと専門職（機関）が連携し支援を行います。

- 活動内容は、声掛け、話し相手、見守りをはじめ住民ができる簡単な家事援助など要支援者の状況により様々です。

ケアネットチームの構成例

実際のチームは要支援者の課題に応じて構成（3～5名程度）されます。